

2022年2月10日

～毎月10日は人権を考える日～

寝た子は起こさないほうがいいのでしょうか

毎年、市内各地で人権・同和教育小地域懇談会が開催されています。その場で、「部落問題について学習や啓発をするようなことをせず、そっとしておいた方がいい。放っておいたら、差別は自然になくなる」という意見が出る場合があります。

「令和元年度人権問題に関する市民意識調査」でも、部落問題を解決するには、「そっとしておくのが効果的である」という意見が約40%という結果が出ました。

そこで今回は、この「寝た子を起こすな論」の誤りについて考えてみましょう。

まず第一に、歴史的事実がこの考えを否定しています。明治になり「解放令」が出され、制度としての身分差別は廃止されました。しかし、部落差別は国の無策により、そっと放置され続けられました。まさに「寝た子を起こすな」という状態であったのです。その結果、部落差別は解消したのでしょうか。残念ながら、厳しい差別がなくならなかったため、「解放令」から50年を経て、「全国水平社」は立ち上がったのです。

第二に、「知らない人は、知らないまま生きていく」という前提がありえないということです。「意識調査」では、部落問題を「学校の授業で知った」という人が一番多いのですが、学習の場以外でも部落問題と出会っている人が多くいるという結果も出ています。教育・啓発の場での正しい情報の伝達を止めてしまうと、家族や友達などの私的な場での間違った情報だけが広がってしまうことにもなりかねません。特に、インターネットの掲示板等で、悪質な差別書き込みが増えていることが問題です。差別感情や偏見をもった人から、間違った考えを刷り込まれている現状があります。

そこで、誤った起こされ方をする前に、学校教育や社会啓発の場において、部落差別の現実に正しく学ぶことが大切になります。

私たち一人一人が、差別解消に向けて具体的に行動できる力を育てていきましょう。